

4. BTC研修修了者からのメッセージ

このコーナーは、BTCが行っている育成調教技術者養成事業の研修を終え、社会へ巣立っていった修了生が生産・育成界の現実を知りつつ、「強い馬づくり」への夢と期待を述べることを目的に解説しています。次世代を担う若者へ皆様から飛躍のためのエールをお願いいたします。

芯のある柔軟さ

榎本牧場勤務 **榎本 一裕**

第13期生(平成10年9月修了)

気づけば私がBTCの研修を修了してもう6年もたちますが、研修をしていたのがついこの前のような気がします。

私は実家が牧場ということもあり、研修終了後は実家にもどりました。研修に入る前も実家で働いていましたが、研修修了後はやはり物の考え方が少し変わったと思います。

以前はただ漠然と牧場の仕事をこなしていましたが、研修では馬に対することと馬産業と言うもののベースになるものを得たような気がします。そして、それまでは何となく解っていたような気のすることも知識として理解することができましたし、何より人から物を教えてもらうことが苦手だった私にはかなりプラスになったと思います。

最近、改めて思うのは人に物を習おうとする姿勢の難しさで、よく言われている「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」は経験上まさにこのとおりだと感じています。

私は24歳で研修を修了しましたが、年々人から聞かれる機会が増えるとともに、人には今更聞けないと感じることも増えています。

しかし、物事を教えてもらうのに年齢は関係なく、それをきちんと聞く気持ちがあるかが大切だと思っています。年上の人からは経験上からの話を聞けるだろうし、年下の人からは新しい知識や発想が得られます。常に柔軟な考えで新しい知識を吸収し、視野を広げなければ、この業界に限らず周りからも置いていかれると思うのです。

確かにこれまで築いてきた自分流のやり方はあるでしょうが、馬をつくるということでは、一つの方法しか知らないのは非常に不利だと思いますし、柔軟なやり方でそれぞれの馬にあった方法を考えなければ個々の馬の持つ能力を引き出し、成績に反映させることはできないと思います。

これは人間関係でも同じだろうと考えます。人それぞれ考え方も違えばアプローチも違うはずで、技術や知識のみならず、本人の向上心や相手に対しての礼節、つまり、人から教えてもらう、人の話を聞く姿勢は大切だと思います。

それらを含めているんな意味でBTCでは良い勉強をしたと思いますし、良い仲間もできたと思います。私はそれらを実家に帰ってからよく実感しました。

また、競馬や仕事、その他についても色々語り合える友人の存在は今までの自分に無かった大きな財産になっています。そういった点ではBTCの先生方や牧場関係者の方々にもいろんなことを習ったり聞く機会があったことは本当に幸運だったと思います。

そしてこれからは、今まで以上に気持ちというか意思をしっかり持っていないとやっていけないだろうとも感じています。「芯のある柔軟さ」これが今の自分の一番大事にしていることです。これからこの業界に入られる方たちには、若いからとかそういうのを言い訳にしないで、自分らしさを探すとともに視野を広げて欲しいと思う次第です。これからどうなっていくか予測の難しい馬産業ではありますが、自分なりのやり方でこれからもがんばっていこうと思います。

平成17年3月記



執筆者とシンウインド号(昭和63年スワンS G 勝馬)